

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	【目標】校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。 【方針】キャリア教育を積極的に推進し、遅しく生きる力を身に付けるとともに、本県の産業に貢献できる人材の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学習指導、教職員の取組に対して、生徒、保護者の両者から良好な評価を得ることができた。「テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」生徒の84%回答。「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」生徒の74%、保護者の78%回答。これらのことは、重点目標である、「創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす」取り組みの成果とも考えられる。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力をはぐくむ。 ◇学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ◇課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた、授業を積極的な推進するとともに、その指導法並びにルーブリック評価についての研究を進める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部と他分掌及び教科、学科との連携を密に取り、研修会、教科研究会等を推進する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 授業研究月間における授業研究の推進 (2) 教科、学科での授業改善に向けた研究会	(1) 研究会、研究授業を生かした授業改善 (2) アクティブ・ラーニングの指導法の研究		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・観点別評価規準を設定した授業の実施 ・課題の発見、解決に向けて主体的、協働的に学ぶ学習を取り入れた授業の実施 ・専門教育の充実をさらに図り、科学的素養を養うことを主眼においた授業の展開	①授業のねらいに迫る指導と評価の一貫性を大切にした授業が展開できたか。 ②生徒の発言や発表等の場を充実した授業が展開できたか。 ③主体的に学習に取り組む態度が養成できたか。	A (B) C D (A) B C D (A) B C D	
11 成果・課題	○課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業を積極的に推進したことにより、学習意欲の向上と主体的に学習に取り組む態度の養成をすることができた。 ○専門教育の充実並びに、SSH事業を通して学会等外部での研究発表の場が増え、知識・技能の習得とともに思考力、判断力、表現力の育成にも大きな成果が上がっている。 ▲パフォーマンス評価における「ルーブリック」についての理解をさらに深めるとともに、学習評価を通じて、学習指導の在り方についての研究を進める。		総合評価 (A) B C D
12 来年度に向けての改善方策案			
・「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視し、アクティブ・ラーニングの視点から不断の授業改善が必要である。 ・目指す資質や能力を明確にし、観点別に評価規準を設定した授業をさらに展開する必要がある。			

2 評価する領域・分野	◇進路指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒の8割以上が進路情報の提供、将来の希望に沿った具体的な進路指導について概ね満足している。 ・保護者の8割以上が進路説明会の内容、進路情報の提供、生徒への		

	進路希望に沿った適切なアドバイスについて概ね満足している。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の観点に立ち、自己の在り方生き方を考えさせながら、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・系統的、体系的に進路意識を高めることができるよう、各分掌、学年、学科、教科と連携を密にした校内体制をとる。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) キャリア形成を意識した系統的、体系的なガイダンス及びLHRの実施 (2) 学年、学科と連携した進路相談・指導の充実、適切な情報提供	(1) 学年進行とともに進路希望の具体化の程度、および希望する進路先への決定割合 (2) 生徒・保護者等を対象とするアンケートによる評価の状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年の進路目標に応じたガイダンス等の実施 第1学年：関連分野のみならず幅広く職業を理解させる 第2学年：職種別、進学分野別の説明会を実施し進路選択に必要な情報を収集させる 第3学年：校種別進学説明会、就職・公務員説明会を実施、進路決定に向けた具体的な対策を立てさせる。 進路希望に応じた進学補習、公務員補習、小論文指導、面接指導の実施 3学年において生徒の進路希望に応じた指導やサポート体制の充実 	① 学年進行とともに進路目標を明確化し、進路未定者が減少しているか。 ② 3年進級時には全員が進路希望を具体化しているか。 ③ 進学、就職ともに概ね希望の進路先に合格できたか。(アンケートの満足度は高いか)	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○生徒は、進路情報の提供、将来の希望に沿った具体的な進路指導について概ね満足をし、希望の進路先にも合格をしている。 (民間企業就職希望者の内定率100%達成、公務員合格者の現状維持(13名内定)増加、6割半の生徒が進学を希望し概ね希望の学校に合格(国公立大16名、私立大66名、短大24名、大学校等15名、専門学校55名)) ▲志を高く持ち、安易な進路選択とならないよう指導する必要がある、また、それに対応できるよう支援体制を充実させ、継続して努力する姿勢、主体的に進路選択をしていく能力と態度を育む必要がある。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 各学科、各分掌、学年、各教科との連携に努め、情報提供とキャリア・カウンセリングを通して、適切な進路選択ができるよう支援を充実する。 目標に達成に向けて生徒が主体的に具体的な行動できるよう、希望に応じた情報提供と相談、支援の充実を図る。進路別の具体的な取り組みが進められるようなガイダンスを充実させる。 		

2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての基本的なモラル・マナーを身に付けさせようと努めている。(生徒) 社会に相応しい服装、頭髪等の指導がなされている。(生徒) 学校としていじめや差別を許さず厳しく指導している。(生徒) 学校の指導に対し理解が得られている。(保護者) 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標の観点に立ち、岐農三訓「時を守り 場を清め 礼を正す」の徹底を図る。 (1) 基本的生活習慣(身だしなみ、遅刻、挨拶)向上の指導徹底。 (2) 生徒の安全と命を守る教育の推進を図る。 (3) 教育相談機能の充実を図る。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部及び職員間の共通認識を図る。 生徒情報の共有化を図る。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) イエロカード、マナカード、遅刻指導の継続 (2) 登校指導や交通安全の啓発運動の実施 (3) 迷惑調査結果の迅速かつ真摯な対応、教育相談週間の実施(年3回、時間確保)	(1) 身だしなみの客観的評価、外部からの評価、遅刻者数の増減。 (2) 交通事故発生数の増減。地域からの評価。 (3) 不登校や問題を抱える生徒の適切な対応。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	

	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検指導。教頭の遅刻指導継続中。 登校指導、自転車点検、ハザードマップ作成。 教員間の連携、情報共有。教育相談機能の充実 	①身だしなみは整っているか。遅刻者数はどうか。 ②交通マナーはどうか。交通事故発生件数はどうか。 ③不登校生徒の対応は十分か。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果・課題	△身だしなみに対する規範意識が緩んだ時期が見受けられた。 △遅刻者は年間で昨年度より増加。通院後の登校やリハビリの生徒が目立った。 △交通事故報告数16件。(昨年同月比-7)1年生が半数を占めた。生徒に対して「指導部たより」発行及び機会あるごと注意の喚起を行った。 ○情報モラルの育成のための講話は生徒にとって共感できるものであった。スマホ使用マナーの向上を図るため、「マナーカード」指導を導入した。それでも1年生の規範意識が低いことが気になった。 ○教育相談課が組織的に機能し、様々な生徒に対応することができた。		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・年度当初の指導を担当がスムーズにできるように、また生徒にも分かりやすくするため、「生徒指導ガイドライン」を職員用、教室掲示(生徒)用に分けて作成、提示する。 ・教育相談課をより一層、組織的に活動していく。特に、生徒からのいじめの訴えに担当がより適切な対応ができるように支援していく。「いじめ早期発見・事案対処マニュアル」の周知徹底を図る。		

2	評価する領域・分野	◇特別活動	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事(岐農祭、体育祭、球技大会など)や部活動が活発と答える生徒や保護者が多く、生徒にとっては学校生活が充実し、保護者にとっては子どもの心身の成長を喜ぶ声が多くなっている。 LHR活動や生徒会活動にやや物足りなさを感じており、特にボランティア活動の大切さを理解させ、その機会を与えてほしいとの声がみられる。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校への帰属意識を高め、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・特活指導部と他分掌、学科、学年会、担任との連絡と連携を図る。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 生徒会行事の円滑な運営と生徒会役員のリーダーシップを育てる。 (2) 他の教育活動との連携を図った生徒会活動の充実を図る。 (3) 部活動の活性化と充実を図る。 (4) 各種委員会活動の充実と自主的なホームルーム活動の実施を図る。	(1) 執行部員の連携が図られ、スムーズに行事の運営を進めることができたか。生徒会役員のリーダーシップを育てることができたか。 (2) 学校行事の準備を計画的に進め、各分掌と連携をとりながら進めることができたか。 (3) 各種県大会以上の入賞数と全国大会への出場など大会結果と日常の活動はどうか。 (4) 各分掌と連携して、委員会活動やホームルーム活動ができたか。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部員による定例会が自主的に運営。生徒会行事の企画、実施運営のためのシナリオ作成。 学校行事の準備の計画的に進行、円滑な運営。広報活動(生徒会新聞の発行)を通じての帰属意識の向上。芸術鑑賞の実施。 部顧問とHR担任との相互連絡。必要備品の整備。 自主的なホームルーム活動の実施。各分掌との連携。 	① 定例会議を開き、早期に企画運営ができたか。 ② 早期に各分掌へ計画を示し、意見集約、検討ができたか。 ③ 生徒の活動状況をHR担任に伝えることができたか。必要備品の整備ができたか。 ④ LHRの充実を図ることができたか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
11 成果・課題	○生徒会執行部が積極的に岐農祭、体育祭、球技大会などの運営に関わることができた。(各行事の準備期間及び当日、行事後のまとめ期間) ○各種表彰を受ける団体や個人生徒が多く、運動系と文化系の多方面での生徒の活躍が顕著であった。		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D

題	▲岐農祭の準備については、6月から各HRや団体に呼びかけを行ったが、具体的な準備活動は9月末からとなり、計画的な作品とは言えない部分もあった。 ○岐農祭の一般公開日については、地域への貢献という形で円滑に運営できた。 ▲生徒の部活動活動状況報告を年度の中間時点（懇談時）で実施できなかった。
12	来年度に向けての改善方策案 ・より良い岐農祭を開催するため、各分掌・学科・団体との共通理解を図りながら円滑な運営に努める。 ・生徒会活動をより充実させ、生徒会執行部の後継者育成のための働きかけも積極的に行っていく。 ・部活動をより活発にし、充実させるための活動しやすい環境を整備していく。

2	評価する領域・分野	◇健康管理・安全管理
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒及の9割強、保護者の8割強が安全・衛生面での配慮がなされていると評価している。 ・2割弱の生徒が「掃除が行き届いており校内がきれいである」の項目にC評価をつけている。
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒ひとりひとりが健康と安全に関する自己管理能力を培う。
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・保健室を中心とした健康と安全に関心を持たせる指導。 ・命を守るための訓練の実施と様々な災害を想定した防災意識の向上。 ・全職員による清掃活動の指導徹底
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 保健室を中心とした保健衛生活動と保健委員による点検活動 (2) 安全点検、命を守る訓練、防災情報整備 (3) 全職員による清掃指導と美化委員による点検	(1) 環境衛生日常点検結果と保健室来室記録・災害報告書による状況把握 (2) 点検結果と行動観察 (3) 係生徒による点検結果
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点
	・活発な保健室活動、廊下掲示物の整備、保健委員によるLHR活動 ・安全点検による環境の整備、命を守る訓練の実施 ・毎日（昼休み後）の生徒全員による清掃活動	① 各自の健康に関心を持つことができたか ② 各自が安全に気をつけたか ③ 身の回りの清掃に気を配ったか
		10 評価
		A B C D A B C D A B C D
11	成果 ○健康・保健・安全指導が徹底され、生徒自身が健康維持に努める行動（手洗いマスク着用など）が見られた。 ○保健委員による点検活動やLHR活動など、生徒が積極的に取り組めた。 ・○「命を守る訓練」は、災害時の職員と生徒の初期行動がほぼ定着している。 ▲毎日の全員掃除はしっかり取り組んでいるが、開始時間の遅れがみられる。 課題 また、外庭の掃除道具などが不足している。	総合評価 A B C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・自らの健康管理においてはなお一層の働きかけを行う。 ・防災意識をさらに向上させるため、「命を守る訓練」ではシェイクアウトを活用する。 ・職員、生徒の美化意識の向上を目指すために、清掃指導を徹底する。また、掃除道具の充実を図り、効率的な清掃活動が行えるようにする。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年 1月18日

【意見・要望・評価等】 ・日頃の学習指導、特に課題研究の活用により、生徒がより積極的に活動し、学習意欲を向上させるようになっていると思われます。 ・生徒1人1人が各々に目標を定め、それに向かって進んでいけるような配慮が様々になされており素晴らしいと思います。 ・多種多様な進学先、業種があり、情報収集に大変かと思いますが、引き続きお願いします。 ・行動面以外に最近では、精神面での先生方のサポートも重要となってきていますので、今後も根気よく指導していただけたらと思います。 ・生徒対象のアンケートで生徒指導の評価がよいので人としてのモラルやマナーをしっかり学んでいるの

がわかります。

- いじめ、差別問題は見つけにくいかもしれませんが、生徒の変化を見逃さないようお願いします。
- 部活動はむろんのこと、それだけにとどまらず、様々な行事イベントなど、いきいきとした姿が見られていると思います。
- 生徒主体で活動することは、とても大切な経験です。もっと地域との関わりを持っていただいて、大人や子供たちに刺激を与えて下さい。
- 先生方が生徒の安全と健康に気を配られているので、安心して通わせることができます。
- 「場を清め」は、精神的にも安全面でも基本となります。自分の身は自分で守るということを継続的にご指導下さい。